

## 「世界遺産を核としたコミュニティの再生」

高野町副町長 高橋 寛治 氏

コミュニティ再生に向けた取り組みについて

- ・地域に入って行って、どう構造化していくのか。答えは現場にあり、現場で考える。
- ・ありのままの環境を少しずつ変えていく事が大切。
- ・前近代性が近代性を超えるファクターになっており、個人の利用と所有の分離がなされている。
- ・財産をかけた合意形成を行おうとするなら、行政は「権限」と「お金」を住民に渡す必要がある。
- ・何事も聞くことが大切だが、公務員は苦手な人が多い。「送り手」から「受け手」になる事が大切であり、先例を重視しすぎてはならない。出来ない事をするために公務員が存在し、だからこそ安定した地位がある。
- ・本来、「街とは何であったのか」まで遡って考える必要がある。町のもつ歴史とか風土、生活文化の連続性を大切にしない限り、多くの人の支持は得られない。

世界遺産を核にした取り組みについて

- ・高野町の「誇り」を再生する為のものであり、あくまで「自己認識」である。
- ・観光客がどれだけ来るかではなく、それに合わせて生活をしていく事が大切である。
- ・景観とは「ソフト」の連合体であり、まちづくり全体にビルトインされ、結果として「ハード」になる。景観だけを抜き出して論じるべきでないし、良くなったからといって訪れる人が増えたとも限らない。
- ・景観とは町に対する住民の気持ちが形となって現れたものであり、だからこそ、大切にしなければならない。
- ・病院や学校、商店などのあるべき都市機能が中心部にあるだけでなく、周辺部との関係が出来ていなければコンパクトシティとはいえない。
- ・中心市街地の本質は多様性であり、基本は居住にある。近年、商業を強くすることに重点がおかれてきたが、多様性を取り戻す行為こそが活性化である。
- ・小さい町では誰がキーパーソンであるか良くわかる。小さいからできる良さがある。

三つの特徴

- ・「緑」の中に町がある
- ・「山規」が生きている
- ・日本で唯一のコンパクト シティ

#### 高野町の現状と特徴

- ・高野町の人口約4,000人。高野山を中心とした宗教と観光のまち。
- ・高野山は、1200年の歴史を持つ真言密教の霊場。
- ・世界的にも稀有な山岳宗教都市。世界遺産。
- ・人口の減少。高齢化率は36.43%

#### 高野山のキーワード

- ・全山借地である。
- ・ルール(山規)が生きている。
- ・職人が多く、親の仕事を引き継いでいる。
- ・大型店など資本が入ってこない。
- ・現在でも品物の配達が行われている。
- ・朝の5時から夜の11時までバス交通がある
- ・今でも宗教民俗が残っている。
- ・消防・病院を独自に持っている。
- ・町も小さく構造も「コンパクトシティ」である。

#### 当面の課題

- ・合併から自立
- ・大阪志向
- ・本山、役場への依頼志向
- ・モータリゼーション
- ・長期ビジョンが無い

#### 高野町の問題点

- ・宗教都市としての機能の低下
- ・観光客の変化(参拝客のウエイト低下、世界遺産登録による変化)
- ・定住人口の流出と高齢化(37.07%)
- ・学生(高野山大学)の減少
- ・町外へのお金の流出
- ・宗教都市としての環境の変化
- ・霊場の雰囲気、町なみ景観の変化・モータリゼーションの進展
- ・通過交通の増加

観光への疑問 ~ 本当に優れた地域とは~

- ・ たくさんの人が来ればよいのか？ オーバーユースはないだろうか？
- ・ 収益が上がればよいのか？ 魅力がひたすら消費される。
- ・ 観光事業者だけが儲ければ良いのか？ 農・林・商・工・建設など全体が享受できる仕組。特に一次産業の元気が大切ではないか。
- ・ 人気(知名度)があればよいのか？ 儲かっているところが一部に偏在しないか。
- ・ 観光資源は消費するだけで良いのか？ 結局、雇用や人口の減少は無いだろうか。

#### 継続した高野山の運営管理

- ・ 高野の町民が中心になって、自分たちの大切なものは「コレ」と自覚しているか。
- ・ 自分たちに責任があると自覚しているか。
- ・ 地域の過去から未来に向けて、必ず残さなくてはいけないのだと自覚しているか。

めざすべき将来像・弘法大師が開創して以来、山岳宗教都市として多くの人々が訪れてきた。室町時代後期に聖フランシスコ・ザビエルが「京都などと並ぶカルチェ・ラタン（文化・学問の拠点）である」と紹介。・大正から昭和初期に、現在のまちの原型が形成された。

高野山の原風景と規範を再生する。・都市には都市、高野山には高野山の生き方があった。

- ・ 修行の場に戻す 本来の姿にする。したがって不便にするのではない。
- ・ 静寂な町・自立した経済の町・文明史の意味再確認。
- ・ 高野町の人々が作り上げてきたものだから、今あるものを大切にする。

#### 周辺集落と可能性

・ 過疎化、高齢化する山間地であっても、高齢者を福祉の対象とは考えない。・ 地域での聞き取りを行い、ワークショップなどを通じて、周辺文化地域との意見交換

高野山まちづくり研究会など・定期的に研究会を開催、住民が個々に持ち寄った地域の情報を中心に住民交流を深め、住民の意見による地域文化の中心地としての高野山と周辺集落の再生を目指す組織。

教育、交通、観光など地域を課題

- ・ 高野町まちづくりへの参加と協力 協力団体として講演会などを開催
- ・ 高野山大学での学生向け講演会 研究会の活動報告や意見交換会